

平成18年度

企画展

北の 台所事情

観覧

無料

休館日 月曜日(2/12は開館), 2/13(火)

開館時間 9:30-16:30

観覧料 無料(常設展示は有料)

主催 北海道立北方民族博物館

協力 (財)北海道埋蔵文化財センター

東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設

オホーツクミュージアムえさし

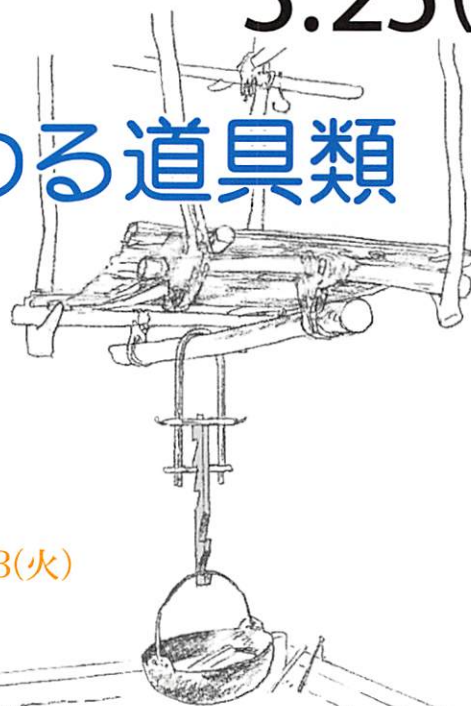
北見市教育委員会
苫前町郷土史研究会



2007. 2.3(土)

3.25(日)

食にまつわる道具類



オホーツク人、
擦文人、アイヌの炉とカマドから
さつもん



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1(天都山・道立オホーツク公園内)

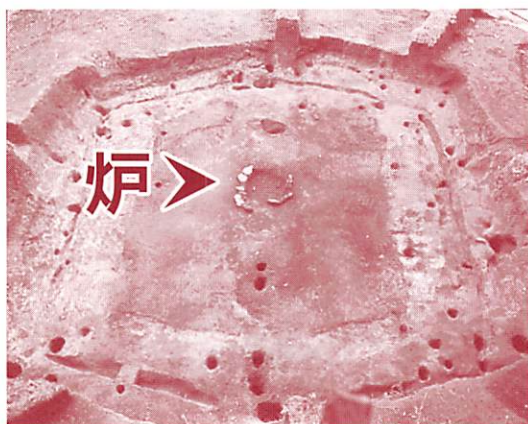
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

オホーツク人、^{さつもん} 擦文人、アイヌの炉とカマドから

「衣食住」というように、「食」が生活に欠かせないことは今も昔も変わりありません。その食を扱う場所は「台所」。台所といえば、調理する場所であり、コンロ(火気設備)や流し台(排水設備)、冷蔵庫(低温の貯蔵庫)、鍋(煮炊き用具)、包丁(調理具)などの道具類が思い浮かぶでしょう。

北海道の歴史を彩ったオホーツク人^{さつもん}や擦文人、アイヌの台所といえば、「炉」か「カマド」が思い浮かびます。炉とカマドはいままでいえばコンロにあたり、また炉は調理のほか暖房や照明など、カマドに比べ多くの機能をあわせもっていました。

オホーツク人は炉、擦文人はカマドと炉、アイヌは炉を中心に、台所や台所兼食卓を構成していました。同じ北海道に住んでいても、台所のあり方はさまざまだったようです。本展では、炉やカマドを中心に、食材の調達から食事、片付けにいたるまでの台所に関わる事からについて、近年の発掘調査成果をもとに紹介します。



オホーツク人の家(湧別町川西遺跡)
オホーツク文化期(7世紀～13世紀)
漁撈や海獣猟などを生業とし、オホーツク海沿岸地域で海の資源を巧みに利用した人びと



擦文人の家(網走市美岬4遺跡)
擦文文化期(7世紀～12世紀)
北海道全域を生活の場とし、川でのサケ・マス漁を中心に、狩猟や雑穀農耕も行っていた人びと



アイヌの台所用具(千歳市美々8遺跡)
写真提供: (財)北海道埋蔵文化財センター
アイヌ文化期(13世紀～)
擦文人を祖先とし、漁撈、狩猟、植物採集に加え、交易活動を積極的に行った人びと

※各文化期の年代は研究者によってさまざまにまだ統一されていません。
本展では主に、10世紀頃のオホーツク人、11世紀頃の擦文人、13世紀から17世紀頃のアイヌの文化を中心に紹介します。
表紙 上:カマド想像図(イラスト提供:苫前町郷土史研究会)
下:炉(イラスト提供:(財)アイヌ文化振興・研究推進機構)

期間中の行事

●:道民カレッジ連携講座

- 講演会「北海道の器-古代の器を中心に」2/4(日)14:00-15:30 当館講堂 無料
講師 田中哲郎氏(北海道教育庁文化・スポーツ課文化財調査グループ)
北海道内の地域ごと、時期ごとの器の特徴や移り変わり、使い方について、
発掘経験豊かな講師が具体例を用いてわかりやすく紹介します。
- 展示解説会2/4(日)13:30, 15:30(各回30分) 当館特別展示室 無料
- 講座「オホーツク文化の台所事情」2/24(土)14:00-15:30 当館講堂 無料
- 博物館クラブ「レッツ・すのーしゅーイング」2/17(土)10:00-11:30当館周辺
保険料100円

※事前にお電話にてお申込ください。



〒093-0042 網走市字潮見309-1
(天都山・道立オホーツク公園内)
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889
<http://hoppohm.org>

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

指定管理者: 財団法人北方文化振興協会